

第四次総合計画の現在の総括

将来像

協働・創造・未来の鼓動 実感“ながい”

第四次総合計画の内容

基本目標 No. 6	(基本目標総数7)
基本目標	快適で住みよいまち
主要施策 No. 19	(主要施策総数22)
主要施策	生活と産業を支える交通基盤づくり
基本施策	①幹線道路と市内道路の総合的ネットワークの構築 ②公共交通機関の確保
主な事業	新潟山形南部連絡道路や国道287号の整備促進活動 街路整備事業(都市計画道路 桐町成田線) 市内生活道路の維持管理、除排雪 フラワー長井線利用拡大事業 山形鉄道経営改善事業 市営バス運行事業 など

計画画別

関係する個別計画	都市計画マスタープラン かわまちづくり計画 都市再生整備計画
----------	--------------------------------------

総括内容

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・置賜生活圏30分構想を実現する幹線道路の整備は、梨郷バイパス、長井南バイパス、森バイパスの整備が開始され進行中である。 ・都市計画道路の整備としては、山形県施工の街路事業として桐町成田線の整備事業が開始された。 ・県、沿線市町と協力してフラワー長井線の存続を支援すると同時に、市バスについては路線やダイヤを見直しによる効率化を図り、公共交通として一定の効果があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路については、一定程度の進展がみられたが、市内生活道路のについては財源が不足したことにより整備に遅れがみられる。 ・公共交通については、高齢化の加速により、これまでよりも多種多様なニーズがでてくることが予想される。一方で透明性の高い公共交通への支援や効率的な運営が必要となってきた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、進められている幹線道路整備については、早期完成を継続して働きかけていく。市内生活道路の整備については、優先度をよく吟味しながら、財源の確保と効率的な整備に努めていく。 ・整備の内容としては、運転者も歩行者にとっても安全安心のみちづくりが求められており、橋梁や道路の長寿命化対策や安全で利用しやすい歩道づくり等にも配慮していく。 ・フラワー長井線の経営改善計画の着実な遂行と経営改善を促し、同時に自治体としての責任範囲を明確にして、存続を支援していく。市バスについては、利便性と効率性のバランスのとれた運行形態を確保していく。

フラワー長井線利用人数・定期外及び旅行業営業収入の推移

年 度		年間利用 人数(人)	定 期 (人)	定期外 (人)	定期外収入 (円)	旅行業営業 利益 (円)	計(円)
2000	平成 12	994,511	873,024	121,487			
2001	平成 13	931,120	841,368	89,752	35,700,000	△ 444,000	35,256,000
2002	平成 14	917,235	802,466	114,769	46,177,000	456,000	46,633,000
2003	平成 15	865,419	746,752	118,667	41,453,000	169,000	41,622,000
2004	平成 16	873,645	704,612	169,033	63,781,000	664,000	64,445,000
2005	平成 17	815,433	649,918	165,515	59,555,000	327,000	59,882,000
2006	平成 18	773,973	616,098	157,875	54,638,000	1,046,000	55,684,000
2007	平成 19	759,666	594,394	165,272	63,652,000	4,194,000	67,846,000
2008	平成 20	748,173	577,682	170,491	54,672,000	4,657,000	59,329,000
2009	平成 21	722,232	555,382	166,850	52,408,000	4,533,000	56,941,000
2010	平成 22	740,165	536,450	203,715	53,012,000 (64,713,000)	4,552,000	57,564,000 (69,265,000)
2011	平成 23	735,445	539,160	196,285	48,001,000 (67,778,000)	4,991,000	52,992,000 (72,769,000)

※2010年以降定期外収入()はJR東日本のウィークエンドバスによる収入を含む。 資料：企画調整課

第四次総合計画の現在の総括

将来像

協働・創造・未来の鼓動 実感“ながい”

第四次総合計画の内容

基本目標 No. 6	(基本目標総数7)
基本目標	快適で住みよいまち
主要施策 No. 20	(主要施策総数 22)
主要施策	うるおいある都市基盤づくり
基本施策	①水と緑と花のまちにふさわしいまちなみの整備 ②土地利用計画の見直し ③快適で安全な環境づくり ④自然を活かした公園づくり
主な事業	かわまちづくり推進事業(フットパス、親水空間の整備など) 都市再生整備事業 長井ダム建設促進事業 上水道事業、公共下水道事業、浄化槽事業 市営住宅管理事業、国土調査事業 都市公園の管理・整備事業

計画画別

関係する個別計画	都市計画マスタープラン かわまちづくり計画 都市再生整備計画 水道施設更新計画 みずのふるさとながい再生計画(汚水処理施設整備) 公園施設長寿命化計画 公営住宅長寿命化計画
----------	--

総括内容

成果	<ul style="list-style-type: none"> 最上川沿いやまちなかにフットパス、舟通し水路、駅西広場等の親水空間が創出された。 上水道については、十分な水源を確保し、安全でおいしい水の提供がなされている。 下水道等の排水処理施設については、整備率91.8%(平成23年度末)と計画的に整備が進み、最上川、野川、白川等の市内河川の水質の向上が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 上水道施設、下水道等施設、都市公園施設、市営住宅等施設において、老朽化が進行し、修繕・更新の必要性が高まっている。 老朽河川の整備については、財源の不足により、整備に遅れがみられる。 公園や親水空間については、計画的・効率的な維持管理に加えて、周辺環境を阻害しない、景観に配慮した空間づくりが求められている。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 上水道施設、下水道等施設の長寿命化と整備を計画的に進め、安全で安定したサービスの提供に努める。また、水洗化のアピールや取り組みを行い普及率の向上と更なる水質の向上に努める。 公園や親水空間については、景観に配慮した空間づくりを念頭に置きながら、老朽化施設の修繕を進めるとともに効率的な緑地管理に努める。 住宅関連補助事業や宅地開発等による優良な住環境整備・提供により、移住・定住を促進していく。